


ノード状態確認コマンド説明書

Windows/Solaris/Linux V13.4.0/V13.4.1

2013-08



目次

第1章 ノード状態確認コマンド説明書.....	1
第2章 インストール.....	3
第3章 コマンドリファレンス.....	9
3.1 mpmonstat(ノード状態確認コマンド).....	9
第4章 メッセージ.....	11
4.1 mpmonstatで始まるメッセージ.....	11
4.2 その他のメッセージ.....	11

第1章 ノード状態確認コマンド説明書

ノード状態確認コマンドについて説明します。

対象製品名・世代

Windows(32bit)版

Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.0

Windows(64bit)版

Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.0A
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.0A

Solaris版

Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition V13.4.0

Linux(32bit)版

Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.0A
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.0A
Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.1
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.1

Linux(64bit)版

Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition V13.4.0
Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.0A
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.0A
Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition V13.4.0A
Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.4.1
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.4.1
Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition V13.4.1

[高度な安全性が要求される用途への使用について]

本修正は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されている製品に対する修正であり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本修正を適用したことにより発生する、お客様、または、第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Copyright FUJITSU LIMITED 1995-2013

第2章 インストール

ノード状態確認コマンドのインストール方法について説明します。

[適用条件]

適用製品のOS

Windows

Windows64-EM64T

Solaris

Linux (※1)

Linux64-EM64T (※1)

※1 Red Hat Enterprise Linux 5

適用種別

運用管理サーバ

必要ディスク容量

【Windows版】

350KB

【Solaris版】

250KB

【Linux版】

100KB

必要メモリ量

特別なメモリは必要としません。

[排他修正/依存修正情報]

ありません。

[修正適用/削除手順]

【Windowsサーバへの適用/削除】

●Systemwalker Centric Manager製品をクラスタサービスとして登録し、運用しているクラスタシステムに修正の適用/削除を実施する場合

※カスケード運用を行われている場合には、運用系、各待機系ノードに対し修正の適用を実施してください。

プライマリノードを運用系、セカンダリノードを待機系システムとして下記に説明します。

1. セカンダリノードに管理者権限を持つアカウント(Administratorsグループ)でログインします。
2. セカンダリノードで以下に示すことを確認してください。
 - － 表示中のSystemwalker Centric Managerの画面がある場合は、すべて閉じてください。
 - － Systemwalker Centric Managerと連携する製品が動作している場合は、停止してください。詳細は各製品のドキュメントを参照してください。
3. セカンダリノードにてSystemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr.exe <Return>
```

4. セカンダリノードに対し修正の適用/削除を実施します。

【適用する場合】

Systemwalkerインストールディレクトリに自己解凍形式ファイルmpmonstat.exeをコピーします。

コピーした自己解凍形式ファイルmpmonstat.exeを展開します。

自己解凍形式ファイルmpmonstat.exeを削除します。

【削除する場合】

以下のファイルを削除します。

```
<Systemwalker インストールディレクトリ>%MPWALKER.DM%\mpnetmgr\bin\mpmonstat.exe
```

5. セカンダリノードにてSystemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr.exe <Return>
```

- Systemwalker Centric Managerと連携する製品を停止した場合は、起動してください。詳細は各製品のドキュメントを参照してください。

6. 系切り替えを実施します。

7. プライマリノードに管理者権限を持つアカウント(Administratorsグループ)でログインします。

8. プライマリノードで以下に示すことを確認してください。

- 表示中のSystemwalker Centric Managerの画面がある場合は、すべて閉じてください。
- Systemwalker Centric Managerと連携する製品が動作している場合は、停止してください。詳細は各製品のドキュメントを参照してください。

9. プライマリノードにてSystemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr.exe <Return>
```

10. プライマリノードに対し修正の適用/削除を実施します。

【適用する場合】

Systemwalkerインストールディレクトリに自己解凍形式ファイルmpmonstat.exeをコピーします。

コピーした自己解凍形式ファイルmpmonstat.exeを展開します。

自己解凍形式ファイルmpmonstat.exeを削除します。

【削除する場合】

以下のファイルを削除します。

```
<Systemwalker インストールディレクトリ>%MPWALKER.DM%\mpnetmgr\bin\mpmonstat.exe
```

11. プライマリノードにてSystemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr.exe <Return>
```

- Systemwalker Centric Managerと連携する製品を停止した場合は、起動してください。詳細は各製品のドキュメントを参照してください。

12. 系切り替えを実施します。

※ 系切り替え方法については、各クラスタシステムのマニュアルを参照してください。

●Systemwalker Centric Manager製品をクラスタサービスとして登録していない場合

◆修正適用/削除前

以下の方法でSystemwalker Centric Managerを停止してください。

1. 修正を適用/削除するサーバに管理者権限を持つアカウント(Administratorsグループ)でログインします。

2. 以下に示すことを確認してください。

- ー 表示中のSystemwalker Centric Managerの画面がある場合は、すべて閉じてください。
- ー Systemwalker Centric Managerと連携する製品が動作している場合は、停止してください。詳細は各製品のドキュメントを参照してください。

3. Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr.exe <Return>
```

4. 修正の適用/削除を実施します。

【適用する場合】

Systemwalkerインストールディレクトリに自己解凍形式ファイルmpmonstat.exeをコピーします。

コピーした自己解凍形式ファイルmpmonstat.exeを展開します。

自己解凍形式ファイルmpmonstat.exeを削除します。

【削除する場合】

以下のファイルを削除します。

```
<Systemwalkerインストールディレクトリ>%MPWALKER.DM%\mpnetmgr\bin\mpmonstat.exe
```

◆修正適用/削除後

以下の方法でSystemwalker Centric Managerを停止してください。

1. 修正を適用/削除するサーバに管理者権限を持つアカウント(Administratorsグループ)でログインします。
2. Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr.exe <Return>
```

起動/停止方法の詳細については、"Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル"の"scentricmgr(サービス/デーモンの起動コマンド)" "pcentricmgr(サービス/デーモン停止コマンド)"を参照してください。

【Linux/Solarisサーバへの適用/削除】

修正の適用/削除を行う際にはマルチユーザモードで行ってください。

シングルユーザモード等で修正の適用/削除を行う際には、以下の必要ディレクトリをマウントした状態で適用/削除を行ってください。

[必要ディレクトリ]

/opt

/var/opt

/etc/opt

※ 上記ディレクトリは通常インストール時の格納先となります。

インストール時に変更した場合には、変更したディレクトリとなります。

●Systemwalker Centric Manager製品をクラスタサービスとして登録し、運用しているクラスタシステムに修正の適用を実施する場合

※ カスケード運用を行われている場合には、運用系、各待機系ノードに対し修正の適用を実施してください。

プライマリノードを運用系、セカンダリノードを待機系システムとして下記に説明します。

1. セカンダリノードにてスーパーユーザになります。
2. セカンダリノードに対し修正の適用を実施します。

【Solarisサーバへ適用する場合】

任意のディレクトリに mpmonstat.tar.gz をコピーし、mpmonstat.tar.gz を展開します。

例) /work ディレクトリにコピーした場合

```
# cd /work
# gunzip ./mpmonstat.tar.gz <Return>
# tar xvf ./mpmonstat.tar <Return>
```

展開後に残ったmpmonstat.tarを削除します。

例) /work ディレクトリにある場合

```
# rm -f /work/mpmonstat.tar <Return>
```

【Linuxサーバへ適用する場合】

任意のディレクトリに mpmonstat.tar.gz をコピーし、mpmonstat.tar.gz を展開します。

例) /work ディレクトリにコピーした場合

```
# cd /work
# tar xvfz ./mpmonstat.tar.gz <Return>
```

展開後に残ったmpmonstat.tar.gzを削除します。

例) /work ディレクトリにある場合

```
# rm -f /work/mpmonstat.tar.gz <Return>
```

3. プライマリノードにてスーパーユーザになります。
4. プライマリノードに対し修正の適用を実施します。

【Solarisサーバへ適用する場合】

任意のディレクトリに mpmonstat.tar.gz をコピーし、mpmonstat.tar.gz を展開します。

例) /work ディレクトリにコピーした場合

```
# cd /work
# gunzip ./mpmonstat.tar.gz <Return>
# tar xvf ./mpmonstat.tar <Return>
```

展開後に残ったmpmonstat.tarを削除します。

例) /work ディレクトリにある場合

```
# rm -f /work/mpmonstat.tar <Return>
```

【Linuxサーバへ適用する場合】

任意のディレクトリに mpmonstat.tar.gz をコピーし、mpmonstat.tar.gz を展開します。

例) /work ディレクトリにコピーした場合

```
# cd /work
# tar xvfz ./mpmonstat.tar.gz <Return>
```

展開後に残ったmpmonstat.tar.gzを削除します。

例) /work ディレクトリにある場合

```
# rm -f /work/mpmonstat.tar.gz <Return>
```

- Systemwalker Centric Manager製品をクラスタサービスとして登録し、運用しているクラスタシステムに修正の削除を実施する場合

※ カスケード運用を行われている場合には、運用系、各待機系ノードに対し修正の削除を実施してください。

プライマリノードを運用系、セカンダリノードを待機系システムとして下記に説明します。

1. セカンダリノードにてスーパーユーザになります。
2. セカンダリノードに対し修正の削除を実施します。

例) /work ディレクトリにある場合

```
# rm -f /work/mpmonstat <Return>
```

3. プライマリノードにてスーパーユーザになります。
4. プライマリノードに対し修正の削除を実施します。

例) /work ディレクトリにある場合

```
# rm -f /work/mpmonstat <Return>
```

●Systemwalker Centric Manager製品をクラスタサービスとして登録していない場合

◆修正適用

1. スーパーユーザになります。
2. 修正の適用を実施します。

【Solarisサーバへ適用する場合】

任意のディレクトリに mpmonstat.tar.gz をコピーし、mpmonstat.tar.gz を展開します。

例) /work ディレクトリにコピーした場合

```
# cd /work
# gunzip ./mpmonstat.tar.gz <Return>
# tar xvf ./mpmonstat.tar <Return>
```

展開後に残ったmpmonstat.tarを削除します。

例) /work ディレクトリにある場合

```
# rm -f /work/mpmonstat.tar <Return>
```

【Linuxサーバへ適用する場合】

任意のディレクトリに mpmonstat.tar.gz をコピーし、mpmonstat.tar.gz を展開します。

例) /work ディレクトリにコピーした場合

```
# cd /work
# tar xvfz /work/mpmonstat.tar.gz <Return>
```

展開後に残ったmpmonstat.tar.gzを削除します。

例) /work ディレクトリにある場合

```
# rm -f /work/mpmonstat.tar.gz <Return>
```

◆修正削除

1. スーパーユーザになります。
2. 修正の削除を実施します。

例) /work ディレクトリにある場合

```
# rm -f /work/mpmonstat <Return>
```

[適用時の影響]

影響はありません。

[注意事項]

- ・ 自動化について
 - ー 本修正は、[修正適用/削除手順]をスクリプト化することで作業を簡易化することができます。
なお、開発元からは、本自動化スクリプトの提供は行っていません。
手順のスクリプト実行によって、サービス停止により運用中システムに影響が発生しますので、システムの運用状態を十分に確認、判断した上で、ユーザ責任の元でしてください。
- ・ 適用後にパッケージの再インストールまたは追加を行った場合、再度修正の適用が必要です。

[修正ファイル一覧]

適用により、以下のファイルに置き換わります。

※左から、ファイル名、ファイルサイズ(バイト)および更新日時(JST)

【Windows(32bit)版】

[運用管理サーバ]

<Systemwalkerインストールディレクトリ>%MPWALKER.DM%mpnetmgr%bin%mpmonstat.exe 172,032 2011/08/19 13:43

【Windows(64bit)版】

[運用管理サーバ]

<Systemwalkerインストールディレクトリ>%MPWALKER.DM%mpnetmgr%bin%mpmonstat.exe 182,272 2011/08/19 13:44

【Solaris版】

[運用管理サーバ]

./mpmonstat 109,528 2011/08/19 15:17

【Linux(32bit)版】

[運用管理サーバ]

./mpmonstat 43,796 2011/08/19 16:46

【Linux(64bit)版】

[運用管理サーバ]

./mpmonstat 47,304 2011/06/28 15:57

第3章 コマンドリファレンス

3.1 mpmmonstat(ノード状態確認コマンド)

機能説明

Systemwalker Centric Managerが監視しているノードの状態をCSVファイルに出力します。

記述形式

【Windows版】

mpmonstat.exe	-f 出力CSVファイル名
---------------	---------------

【Linux版/Solaris版】

mpmonstat	-f 出力CSVファイル名
-----------	---------------

オプション

-f 出力CSVファイル名:

省略不可能です。出力CSVファイル名は、フルパスで指定してください。Systemwalker Centric Managerが監視している全ノードの状態を、指定されたファイルにCSV形式で出力します。

出力形式

CSV形式で出力し、第1カラム目に代表ホスト名、第2カラム目に代表IPアドレス、第3カラム目にノードの状態値を書き込みます。

ノードの状態値は、次の状態を表します。

0	初期状態(一度もノードの状態を監視していない状態)
1	停止状態(ノードが未起動状態)
2	起動状態(ノードが起動状態かつSNMPエージェント未起動)
3	SNMPエージェント起動状態(ノードが起動状態かつSNMPエージェント動作中)
4	一部インタフェース異常(ノードが起動状態かつSNMPエージェント動作中かつ一部インタフェースが停止中)
5	監視抑止状態(ノードが監視抑止状態)

復帰値

0:正常終了

コマンドが正常終了しました。

1:パラメタエラー

コマンドに指定したパラメタに誤りがあります。

2:フレームワークエラー

フレームワークデータベースのアクセスに失敗しました。Systemwalker Centric Manager が起動しているか確認してください。

3:内部矛盾エラー

内部処理で矛盾が発生しました。

4:システムエラー

システムエラーが発生しました。

5:キャンセル

対処の必要はありません。必要に応じて再度、実行してください。

格納先

【Windows版】

<Systemwalkerインストールディレクトリ>%MPWALKER.DM%mpnetmgr%bin

【Linux版/Solaris版】

任意

実行に必要な権限/実行環境

- 実行には、管理者(root/Administrator)権限が必要です。
- 運用管理サーバ上で実行してください。
- Systemwalker Centric Manager が起動している状態で実行してください。
- 二重起動は行わないでください。
- 既に存在するファイルを指定した場合、指定したファイルを上書きします。
- 上記で公開しているオプション以外は指定しないでください。

使用例

【Windows版】

```
<Systemwalkerインストールディレクトリ>%MPWALKER.DM%mpnetmgr%bin%mpmonstat.exe -f file
```

【Linux版/Solaris版】

```
./mpmonstat -f file
```

実行結果/出力形式

```
"hostname1.domain.co.jp","10.10.10.1",3  
"hostname2.domain.co.jp","10.10.10.2",0  
"hostname3.domain.co.jp","10.10.10.3",1  
"hostname4.domain.co.jp","10.10.10.4",2  
"hostname5.domain.co.jp","10.10.10.5",4  
"hostname6.domain.co.jp","10.10.10.6",5  
"hostname7.domain.co.jp","10.10.10.7",5  
"hostname8.domain.co.jp","10.10.10.8",3  
"hostname9.domain.co.jp","10.10.10.9",5
```

第4章 メッセージ

ノード状態確認コマンドを実行したときに出力されるメッセージについて説明します。

4.1 mpmonstatで始まるメッセージ

mpmonstat: Completed.

【メッセージの意味】

ノード状態確認コマンドが正常終了しました。

【対処方法】

対処の必要はありません。

mpmonstat: ERROR: The framework error occurred.

【メッセージの意味】

フレームワークデータベースへのアクセスに失敗しました。

【対処方法】

Systemwalker Centric Manager が起動しているか確認してください。

それでも解決しない場合は、保守情報収集ツールにて資料を採取し、サポート員に連絡してください。

mpmonstat: ERROR: Internal error occurred.

【メッセージの意味】

内部処理で矛盾が発生しました。

【対処方法】

保守情報収集ツールにて資料を採取し、サポート員に連絡してください。

mpmonstat: ERROR: The system error occurred.

【メッセージの意味】

システムエラーが発生しました。

【対処方法】

保守情報収集ツールにて資料を採取し、サポート員に連絡してください。

mpmonstat: Canceled.

【メッセージの意味】

処理がキャンセルされました。

【対処方法】

対処の必要はありません。必要に応じて再度、実行してください。

4.2 その他のメッセージ

USAGE: mpmonstat -f filename

【メッセージの意味】

指定されたパラメータに誤りがあります。

【対処方法】

指定したパラメータを見直してください。